

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平4-123121

(43) 公開日 平成4年(1992)11月8日

(51) Int.Cl.<sup>5</sup>

A 4 6 B 15/00

識別記号

庁内整理番号

L 2119-3B

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 2 頁)

(21) 出願番号 実願平3-37906

(22) 出願日 平成3年(1991)4月23日

(71) 出願人 000112299

ピツプフジモト株式会社

大阪府大阪市中央区農人橋2丁目1番36号

(72) 考案者 矢崎 誠一

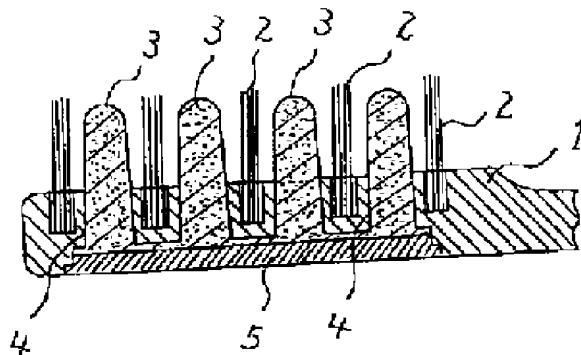
大阪市港区弁天2丁目1番27号

(54) 【考案の名称】 歯ブラシ

(57) 【要約】

【目的】 歯磨用具として歯の清浄を行なうとともに、特に磁力線によって歯肉の血行促進効果を発揮せしめる。

【構成】 毛束部(2)を植設してなる歯ブラシ本体(1)の適宜箇所、磁石体(3)を併設してなる。



(2)

実開平4-123121

1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 毛束部を植設してなる歯ブラシ本体の適宜箇所、磁石体を併設してなることを特徴とする歯ブラシ。

【請求項2】 請求項1の磁石体を、軟質ボンド磁石としたことを特徴とする請求項1の歯ブラシ。

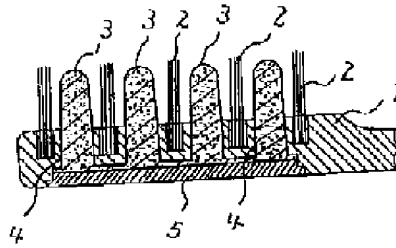
【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の一実施例を示す縦断面図である。

【符号の説明】

- 1 歯ブラシ本体
- 2 毛束部
- 3 磁石体
- 5 蓋体

【第1図】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

この考案は、歯磨用具として歯の清浄を行なうとともに、特に、磁力線によって歯肉の血行促進効果を発揮せしめる歯ブラシに関するものである。

【0002】

【従来技術】

従来、既存の歯ブラシが食物の残滓や歯垢の除去を目的とするものであったが、使用時に歯肉のマッサージをも併せ行なうことにより、歯肉の血流促進と歯垢や歯石のイオン化を図り、歯肉炎や歯槽膿漏などの予防および治療の効果を併有させるために、先端に磁石を内包し、高さが毛よりやや低い突条を植設部に併植したことを特徴とする歯ブラシが提案されている。（実公昭62-30983号）

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

しかし、上記公知の歯ブラシにおいて、マッサージ効果の役目を果す突条は、先端が閉塞されたシリコンラバー、プラスチック等の中空部の最奥部に磁石を挿入位置せしめて形成されるものであるから、新たに次の欠点が生じた。

【0004】

即ち、磁石はシリコンラバー、プラスチック等によって覆われているので、磁石の磁束密度が直接に歯肉等に作用することがなく、シリコンラバー、プラスチック等によって大幅に減じられて作用する結果、血流促進等の効果が発揮されないものとなった。（実際に測定すると、表面磁束密度が3000ガウスである磁石であっても、シリコンラバー等によって隔てられることにより、そのシリコンラバー等の表面磁束密度は1300ガウスまで減じることが確認された。）

【0005】

その上、磁石の脱落を防ぐために、磁石の径を中空部の内径よりやや大とし、突条先端が基部より膨出するまで挿入する必要があるばかりか、残余の中空部には、細い樹脂片を挿通充填しなければならないので作業効率が著しく悪く、機械

化による大量生産が困難であるため、コストが非常に高価となるものとなった。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本考案は上記新たな欠点を解消するために提案するものであって、毛束を植設してなる歯ブラシ本体の適宜箇所に、磁石体を併設してなることを特徴とするものである。

【0007】

【作用】

しかして、本考案は毛束部で歯の清浄を行なうとともに、磁石体から発生する磁力線によって、歯肉の血行を促進させるものである。

【0008】

【実施例】

図面は本考案の一実施例を示すもので、(1)は歯ブラシ本体で、該歯ブラシ本体(1)にはナイロン等で形成された複数条の毛束部(2)が植設されている。

【0009】

(3)は歯ブラシ本体(1)の中央列に毛束部(2)と併設されている軟質で連続する磁石体であり、該磁石体(3)は歯ブラシ本体(1)に透設された透孔(4)に嵌挿され、蓋体(5)によって止着されている。上記磁石体(3)は磁石の粉を、ゴム又はプラスチックの中に練りこんで軟質に形成したもので、一般には、ボンド磁石(プラスチック磁石、ゴム磁石)と称されているものである。

【0010】

尚、上記実施例に基づいて、磁束密度1200ガウスの磁石体(3)を磁石往復振盪器で1秒間に1回、左右に1.5cmの幅で水平移動させた場合の血流量の増加をレーザードップラー血流計で計測したところ、 $0.44 \pm 0.07$ ボルトの血流量の増加が認められた。

【0011】

尚、上記磁石体(3)は各々が分離独立したものであってもよい。

【0012】

【考案の効果】

以上説明したように本考案は、ボンド磁石等の磁石体を直接に歯肉等に接触させることができるので、磁石体の磁束密度そのもので作用させることができ、歯肉等の血行を促進させるばかりか、公知例のように、シリコンラバー等に磁石を挿入させるという、非常に手間を有する作業を必要としないので、機械化も可能であり、安価な歯ブラシを提供できるものである。